

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和2年 3月 9日

事業所名 さわらび通所支援事業所

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			十分なスペースがある	
	2	職員の配置数は適切である	○			時間差で休憩するなど手薄にならないようにしている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○				ご利用者の行動パターンに沿って、器材を移動するなど事前に危険を排除している
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			毎日の清掃により清潔な空間を保つようにし、危険なものは排除する	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				各専門職員の取り組み幅を上げている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○			定期的なアンケートの実施により、頂いたご意見を各職員と検討し改善に繋げる
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				事業所のHPで公開する
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○				ISO 9001の認証を取得見込みである
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			療育園の研修等に参加している	事業所内での研修も実施し、資質の向上を図っている
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している					今年度は利用者がいないが十分分析して作成するよう心掛けている
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			法人内各通所事業所で統一したアセスメント表がある	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている					今年度は利用者がいないが、提供すべき支援から適切に選択して支援内容を決定するようにしている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている					今年度は利用者がいないが、計画に沿った支援を実施している
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			児童指導員を中心に取り組んでいる	活動プログラムについてのアンケートを実施してご意見を立案に取り入れている
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童指導員を中心に取り組んでいる	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している				今年度は対象者がいない	今年度は利用者がいないが、状況に応じた必要な組み合わせをして作成している

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				送迎対応の時間差により、開始前にできない場合は業務用連絡板の使用や口頭での連絡により確認し合い、日中の時間のミーティングで再確認している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				送迎対応の時間差により、終了後にできない場合は業務用連絡板の使用や口頭での連絡により確認し合い、日中の時間のミーティングで再確認している
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個人記録を作成して職員間で共有している	ミーティングの記録等も活用し支援に役立てている
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				今年度は利用者がいないが、生活介護支援計画でもモニタリングをして見直している
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者が出席することになっている	必要性があれば他職種にも出席を求める
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている					今年度は利用者がいないが各関係機関とは連携を取っている
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					さわらび療育園や各関係機関と連携を取っている
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○				連絡体制は整えてある
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている					今年度は利用者がいないが、情報提供は十分に行うよう努めている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている					今年度は利用者がいないが、各学校との連携を図るように心がけている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			今年度は利用者はいないが、法人内児童発達支援センターとの連携を取っている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			○		今年度は利用者はいないが、療育園の訪問学級等との交流も考えている
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○			情報共有は行っているが積極的な関わりはないので今後は関りを深めたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている					今年度は利用者はいないが、保護者との共通理解は図れるよう努めている
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている					保護者から相談を受ける中でアドバイス等を行うこともある
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に丁寧に説明している	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				今年度は利用者がいないが、計画の同意は必ず得るようにしている	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている				生活介護の利用者家族からの相談の受付や専門職へ繋ぐ等をしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				ご家族からの要望意見をお聞きして、必要な場合はご家族同士の連携を支援する	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している				相談や申し入れに対しては迅速な対応を心掛けている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			療育園広報誌「はんの樹」に寄稿している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			法人の規程に沿っている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				今年度は利用者がいないが、十分配慮している
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			ボランティア等を受け入れ、技能を活かし活動していただいている	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		療育園と合同で実施している	職員間では共有ができていますが、保護者への周知に努める
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			療育園と合同で実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している					今年度は利用者がいないが、事前の確認と準備は十分に行っている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている					今年度は利用者がいないが、指示に基づいて対応する
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			書面、PCどちらでも確認できる	事業所、療育園ともに報告、共有をしている
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			療育園と合同で実施している	虐待防止への職員の意識向上を図る
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				児童発達では実績がないが生活介護ではそのようにしている	拘束解除に向けて定期的な検討を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。